

全体総括

○計画期間；平成24年4月～平成29年3月（5年）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市は、平成19年度からの5か年度に係る第1期基本計画に基づき中心市街地の活性化に取り組んできたが、その効果をさらに伸張し、まちなかに一層の活力をもたらすため、『人が住まい、集い、つながる、中心市街地の実現』をめざして、総合的かつ計画的に事業を推進した。

「まちなか定住促進事業」等の取組を推進し、「金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業」や「金沢まちなか学生交流街拠点整備事業」を完了させたほか、公共レンタサイクル「まちなか」の運用、「片町A地区第一種市街地再開発事業」による複合商業施設のオープンなど重層的な事業の展開によって、再開発事業実施前と比べ、まちなかに若者の姿が目立つようになった。

これらの取組の結果、一時期東日本大震災等の影響を受けたものの、計画期間中の合計において、中心市街地の転入人口が転出人口を上回るなど、定住が促進されたことに加え、文化施設等の入場者数、公共レンタサイクル「まちなか」の利用回数とともに目標値を上回るなど、交流人口のプラスをもたらした。

平成27年3月に北陸新幹線が金沢まで開業となり、金沢駅と観光地の間を徒歩で移動する新たな人並みが生まれたり、「まちなか」を活用して、国内のみならず海外の観光客がまちなかを回遊する姿が目立つなど、まちなかに活気と賑わいがもたらされた。その一方で、交通渋滞や、近江町市場において地元客の足が遠のいたり、東山ひがし、長町地区において観光客と住民との摩擦が生じるなど、新たな課題も明らかとなっていることから、マイナスの影響についてはそれを抑制しながら、プラスの効果の拡大を図っていく取組が必要である。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2.における選択肢の理由）

計画していた事業は171事業中61事業が完了、110事業が着手または実施中であり、順調に進捗した。

指標の4つのうち3つが目標を達成し、残る1つについても、目標は下回ったものの来街者は確実に増加傾向にあるといえる。また、市民アンケート結果でも良好な結果が得られており、定住人口及び交流人口の双方について、増加・改善していることから、中心市街地の活性化が図られていると考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた

- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

金沢市中心市街地活性化協議会としては、市や関係諸団体と協議、連携を図り各種事業を進めていたが、年間社会動態や観光施設の利用者数、公共レンタサイクルの利用回数など、各種数値において目標を上回っており、中心市街地において様々な賑わいを創出出来たという観点で概ね計画は遂行されたと考えている。

但し、歩行者・自転車通行量など一部の目標が達成されなかったこともあり、今後の課題が残っている。また、第2次計画期間中にも社会環境は変化しており、こうした変化への対応も含め引き続き官民が連携を強めて中心市街地の活性化に向けて取り組んでいく。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

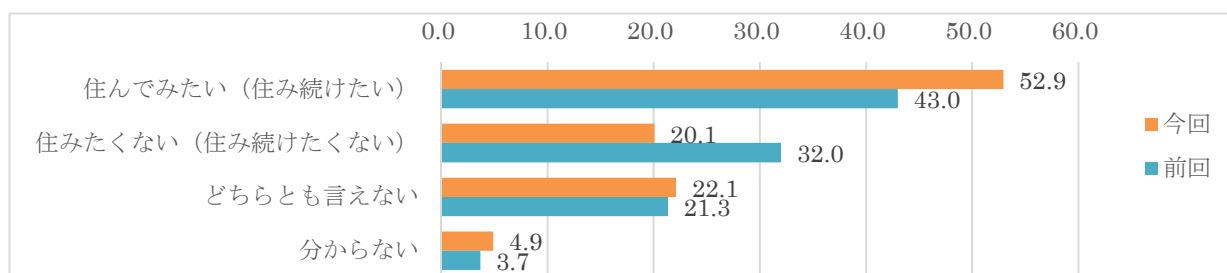
金沢市中心市街地活性化に関する市民アンケート調査

調査時期:平成 28 年 6 月 15 日～7 月 12 日

調査方法:市民 1,397 人を無作為抽出しアンケートを郵送、503 人が回答

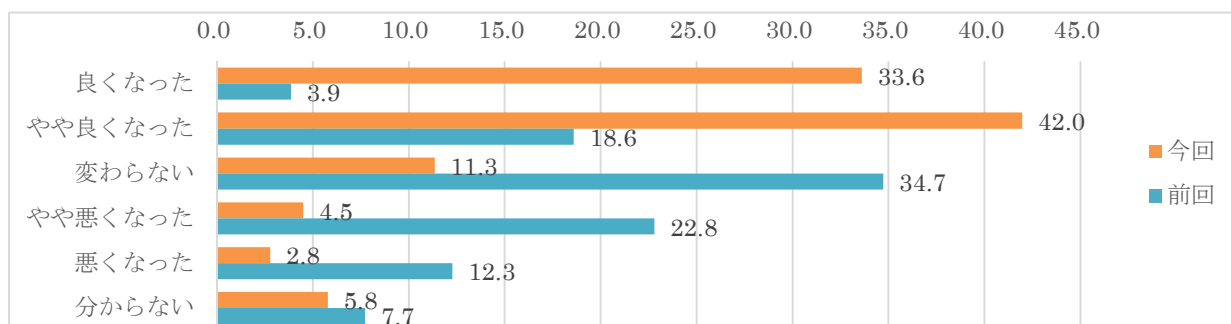
○中心市街地に住んでみたい(住み続けたい)と思いますか。

- ・住んでみたい(住み続けたい)との回答が5割超あった。
- ・その割合は、前回調査(H15.6)と比較して大きく伸びている。



○中心市街地全体としての環境は良くなったと思いますか？(賑わいの状況)

- ・良くなった、やや良くなったとの回答が7割強あった。
- ・その割合は、前回調査(H15.6)と比較して大きく伸びている。



○北陸新幹線金沢開業で観光客が大幅に増えたことについて、どう思いますか。(複数回答可)

- ・中心市街地に活気が出てうれしいとの回答が 24.6%と最多で、金沢の魅力を再認識できた(15.7%)の回答もありプラスの効果が数値に表れた。
- ・近江町市場での買い物がしづらくなった(22.4%)、交通渋滞が悪化し、中心市街地に行きづらくなった(14.1%)、いつも行っていたところが混雑しているの中心市街地に行かなくなった(12.0%)など、局所的には新たな課題が生じている結果となった。

回 答	回答数	割 合
中心市街地に活気が出てうれしい	259	24.6
飲食店が増え、中心市街地に行くようになった	42	4.0
金沢の魅力を再認識できた	165	15.7
交通渋滞が悪化し、中心市街地に行きづらくなった	149	14.1
いつも行っていたところが混雑しているので、中心市街地に行かなくなった	127	12.0
近江町市場での買い物がしづらくなった	236	22.4
その他	76	7.2
計	1,054	100.0

6. 今後の取組

4つの目標のうち3つを達成することができ、人口の社会動態の改善、交流人口の拡大など、中心市街地の活性化に向けて着実な前進が見られた。しかし、休日の通行量の増加では目標を達成できず、地点によって効果の違いが見られるなど、活性化がまちなか全域に及んでいない課題が明らかとなった。

市民アンケートの結果では、中心市街地に住みたい(住み続けたい)とした回答、環境が良くなったとの回答が、ともに前回調査から大きく伸びており、大変明るい材料である。一方で、北陸新幹線金沢開業により、中心市街地に活気が出てうれしい、金沢の魅力を再認識できた、とのプラスの効果を挙げる声とともに、交通渋滞の悪化や混雑、これに伴って市街地に行きづらくなったなど、マイナスの声も聞かれたことから、新たな課題についてのケアを行いながら、市民と来街者が調和したまちづくりを行っていく必要があると考えられる。

本市では、本計画の効果を伸張しながら、同時にこれらの課題への対応も図っていくため、「住む、訪れる、働く魅力にあふれ、交流と生活が調和した中心市街地」をテーマとした、第3期基本計画を策定し、本年3月に認定を受けた。これまで培ってきたまちの個性や文化の保全、活用、商業施設や交通の再生を促進し、中心市街地の付加価値を高めるとともに、市民と来街者双方にとってアクセシビリティの高い環境を整備することで、定住人口と交流人口の拡大を図り、中心市街地の活性化を推進していく。また、行政に依存しない自立した中心市街地を目指し、住民・事業主・地権者等による「エリアマネジメント」手法によるまちづくりを推進するほか、中心市街地への出店支援、金沢市創業支援事業計画に基づく起業支援体制を整え、経済活力の向上を図る。

具体的には、金沢駅武蔵南地区第一種市街地再開発事業や、まちなか定住促進事業等の実施により、まちなかの定住人口の増加を目指し、近江町市場複合商業施設整備事業等の実施により、幅広い年代にとって魅力ある商業環境をつくり、第2次金沢交通戦略推進事業等の実施により、公共交通を優先したまちなか環境を整えるとともに、東京国立近代美術館工芸館移転事業、建築文化拠点施設整備地事業等によって、歴史文化資産を活かし、市民・来街者を引きつけるなど、多面的かつ重層的な取組を行っていく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
誰もが暮らしやすい中心市街地	中心市街地の人口の年間社会動態	+26 人/年 (H19~22 平均)	+35 人/年 (H24~28 平均)	+102 人/年	H29.1	A
にぎわいと交流が生まれる中心市街地	主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量	113,089 人 (H23 速報値)	115,000 人 (H28)	110,173 人	H28.10	C
	中心市街地の観光施設の利用者数	5,869 千人 (H22)	6,193 千人 (H28)	10,116 人	H29.4	A
過度に自動車に依存しない中心市街地	公共レンタサイクル「まちのり」の利用回数	-	100 千回/年 (H24~28 平均)	215 千回	H29.3	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

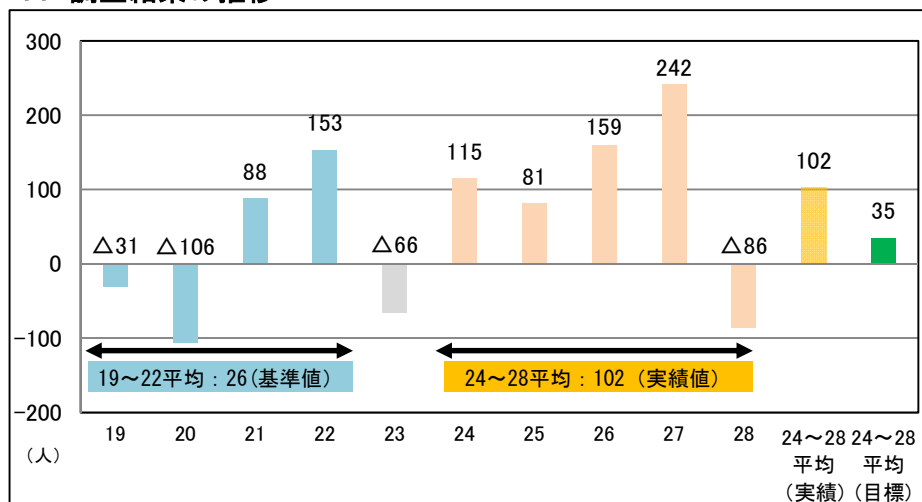
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「中心市街地の人口の年間社会動態」※目標設定の考え方 基本計画 P.50～P.56 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人/年)
H19～22 平均	+26 (基準値)
H24	115
H25	81
H26	159
H27	242
H28	△86
H24～28 の平均	+102 (実績値)
H24～28 の平均	+35 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：平成29年1月

※調査主体：金沢市

※調査対象：中心市街地活性化基本計画区域内

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① まちなか定住促進事業（事業主体名：金沢市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(地域住宅計画に基づく事業と一体の効果促進事業)、平成18～32年度
事業開始・完了時期	平成10年度～【実施中】
事業概要	まちなか区域において、定住人口増加を図るため、戸建て住宅・共同住宅の購入等に助成する。
目標値・最新値	まちなかにおける新規住宅着工戸数（戸建て） 【目標値】118戸 【最新値】153戸
達成状況	中心市街地の人口の年間社会動態の目標が達成されており、事業の目標を達成したと考えられる。
達成した（出来なかった）理由	制度の周知が図られ、まちなかでの住宅建築・購入のインセンティブとなっている。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなか区域の住宅着工件数が順調に推移している。
事業の今後について	戸建て住宅、共同住宅への支援を継続し、制度の周知を図ることで、まちなかからの転出抑制と転入促進を推進していく。

②. 金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業第三・四工区（事業主体名：金沢市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業)
事業開始・完了時期	昭和 51～平成 24 年度【済】
事業概要	市街地再開発事業により、住宅、商業施設の整備とシンボルロード等の主要公共施設を一体的に整備
目標値・最新値	新たに整備される住宅数 【目標値】62 戸 【最新値】62 戸
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	都心軸沿線に整備した住宅が完売した。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなかにおける定住人口の増加に寄与している。
事業の今後について	実施済み

3. 今後について

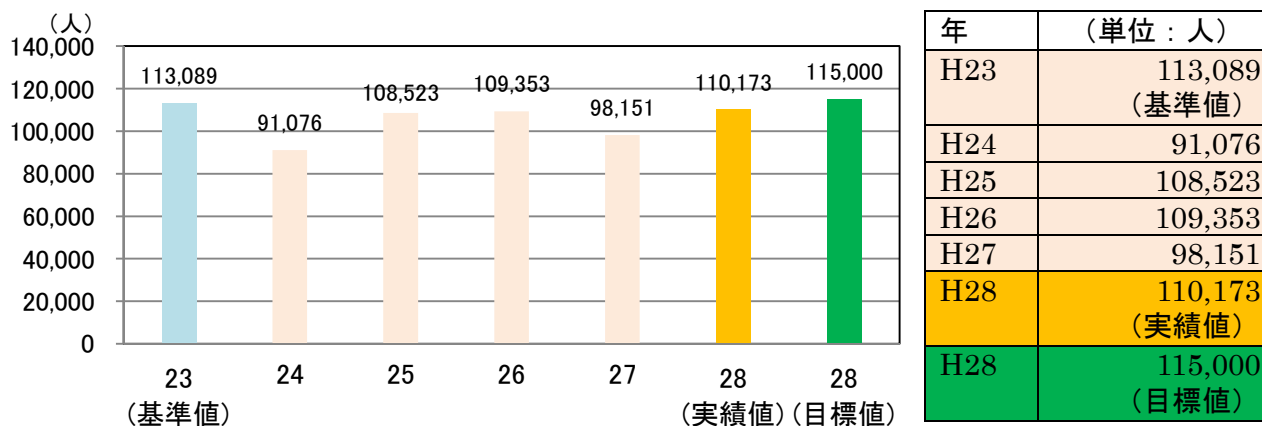
事業の一定の効果は上がっており、中心市街地における社会増減はプラスとなっているものの、自然増減がマイナスとなっており、全体では減少が続いている。持続的な発展のため、まちなか居住の利便性を向上させ、区域外からの定住増(特に若年層)を図り、高齢化を食い止める必要がある。

そこで、本市固有の自然、歴史、伝統文化、社会資本等ストックを有効活用し、開発と保全の調和を図りながら、多様な都市機能を集積させ、まちなか居住のメリットを高めるとともに、住宅供給や公益施設の充実を図っていく。

個別目標

「主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P.57～P.60 参照

1. 調査結果の推移



※調査方法：調査地点を通過する歩行者を調査員が進行方向別、男女別にカウント

※調査月：平成28年10月

※調査主体：金沢市

※調査対象：中学生以上の歩行者（自転車は歩行者に含む）

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業第三・四工区（事業主体名：金沢市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業)
事業開始・完了時期	昭和51～平成24年度【済】
事業概要	市街地再開発事業により、住宅、商業施設の整備とシンボルロード等の主要公共施設を一体的に整備
目標値・最新値	第四工区に隣接する武蔵地区（武蔵交番前地点）の休日通行量 【目標値】1,518人増加 【最新値】2,200人増加（H28－H23）
達成状況	達成した。
達成した（出来なかった）理由	事業の実施により、都心軸沿線に住宅等を整備したことにより、通行量が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	北陸新幹線開業もあり、交流人口が増加している。
事業の今後について	実施済み

②. 片町 A 地区第一種市街地再開発事業（事業主体名：片町 A 地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業) 平成 25～28 年度
事業開始・完了時期	平成 24～28 年度【済】
事業概要	片町地区の既存ビルを活用し、商業施設と公益施設の複合施設として再整備
目標値・最新値	【目標値】事業完了が H28 のため効果として見込まず 【最新値】施設前における休日通行量 12,165 人(H28)
達成状況	計画通りに事業を完了し、通行量の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	事業完了が H28 のため、調査日の通行量の増加への貢献は限定的だったため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業完了後は、周辺地域に賑わいが創出され、若者が買い物をする姿がみられるなど、交流人口の回復傾向が見られる。
事業の今後について	実施済み

③. 金沢まちなか学生交流街拠点整備事業（事業主体名：金沢市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業) 平成 23～24 年度
事業開始・完了時期	平成 23～24 年度【済】
事業概要	学生がまちなかに集い、学生活動を進めるほか、市民や商店街との交流・活動を展開するための拠点施設を整備する。
目標値・最新値	金沢まちなか学生交流街の来館者数 【目標値】 28,835 人（79 人／日×365 日として） 【最新値】 61,627 人（H28）
達成状況	平成 24 年の開館以来、毎年利用者数が増加し、当初見込みを上回る来館者数を達成した。
達成した（出来なかった）理由	施設の周知が図られるとともに、学生の活動の幅が拡大するなど、さらなる利用を生み出し、来館者の増加につながっている。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 24 年 9 月に完成し、「金沢学生のまち市民交流館」として開館。まちなかでの学生活動の促進につながり、賑わい創出に寄与している。
事業の今後について	実施済み

3. 今後について

通行量測定箇所の3分の2にあたる6地点で通行量が増加した。増加したのは、金沢駅から武蔵、近江町地区にかかる地点であり、金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業、武蔵が辻地区複合施設整備事業等の実施による効果があったといえる。一方で、香林坊から片町、堅町地区においては、4地点中3地点で通行量が減少しており、9地点の合計では、目標を達成することができなかった。要因として、エリアによる偏りが生じていることが挙げられる。金沢学生のまち市民交流館は、当初の見込みを上回る来館者があり一定の効果はあると考えられるが、エリア内の通行量を押し上げるまでには至らなかった。

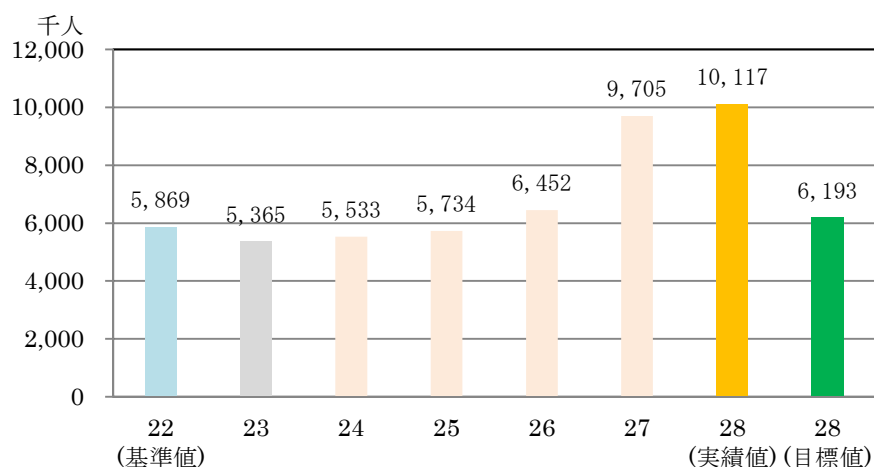
参考に平日における通行量をみると、59,253 人(H23)から 71,533 人(H28)に増加しており、近郊の来街者や市民の往来により、平日については賑わい創出が図られていることから、一定の成果が上がっている。

今後、効果のあった取り組みについて引き続き推進するとともに、幅広い年代に向けた商業環境の創出や新たな来街層の獲得を図り、回遊性向上につながる魅力的なイベントを開催するなど、事業効果がまちなか全域に及ぶ取り組みを行っていく必要があると考えられる。

個別目標

「中心市街地の観光施設の利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P.61～P.67 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H22	5,869 (基準値)
H23	5,365
H24	5,533
H25	5,734
H26	6,452
H27	9,705
H28	10,116
H28	6,193 (目標値)

※調査方法：利用実績調査

※調査月：平成29年1月

※調査主体：金沢市

※調査対象：観光施設利用者

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① MICE誘致戦略推進事業・拠点性向上ネットワーク運営事業（事業主体名：金沢市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業開始・完了時期	平成23～28年度【実施中】
事業概要	・MICE全般の誘致に向けた戦略を策定し、取り組みを推進 ・本市に進出している企業の支店長等とのネットワークを形成
目標値・最新値	金沢地域におけるコンベンション開催件数と参加者総数 【目標値】件数411件、人数91,798人(H22から毎年4%増として) 【最新値】件数350件、人数126,521人(H28)
達成状況	件数は、見込値より少ないもののH23から25件増加した。 参加者総数は大幅増となり、目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	事業の規模の大きなコンベンション誘致につながっており、件数増加は小幅であったが、参加総数において大幅な増加となった。
計画終了後の状況（事業効果）	観光文化施設入場割引券付きコンベンション参加者配布用ガイドブック等の配布等により、アフターコンベンションとして観光施設の利用増につながっている。
事業の今後について	引き続き、重点的なMICE誘致推進を行うとともに、企業誘致に向けた活動を行っていく。

②. 自転車利用推進事業（事業主体名：金沢市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 24 年3月～【実施中】
事業概要	市民の日常の移動手段として都市内交通の充実と、来街者のまちなか回遊性向上として二次交通の充実を目的として、公共レンタサイクル「まちなかのり」の運用を開始した。
目標値・最新値	公共レンタサイクル「まちなかのり」利用回数 【目標値】130,861 回 【最新値】214,770 回（H28）
達成状況	目標値を大きく上回る利用回数を達成した。
達成した（出来なかった）理由	まちなかにおける市民や観光客等の移動手段として定着し、利用が拡大している。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなかの賑わいの創出や交流人口の拡大に貢献している。
事業の今後について	需要を注視し、回遊性を高めるよう政策的な誘導を図りながら、ポートの増設等、事業の充実拡大を図っていく。

3. 今後について

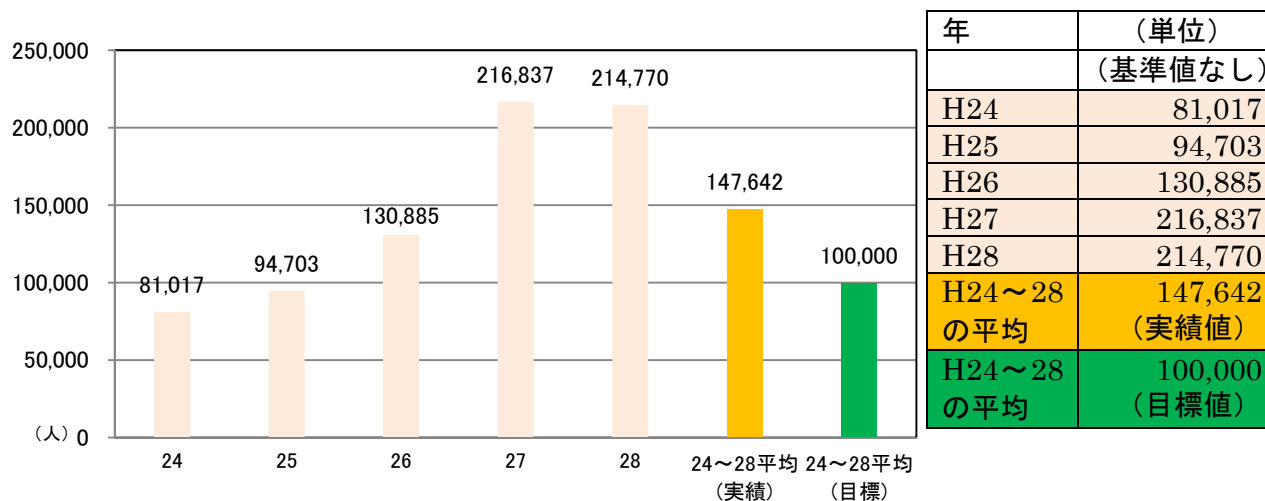
本市固有の歴史資産や地域資源に立脚したまちづくりを進め、歴史や文化的魅力を発信することで、来街者の増加につなげるとともに、その保全活用、新しい文化の創造を更に進めることにより、金沢の求心力の維持と向上を図っていく。

また、来街者の急増による住民の中心市街地離れの防止にも配慮し、来街者と住民が調和した中心市街地を目指して、観光施設だけでなく、利用者に占める市民の割合が減少傾向にある文化施設の利用者数の増加にも取り組んでいく。

さらに、歴史・文化への関心・造詣の深い欧米豪からの外国人訪問客への対応についても、強化していく必要がある。

個別目標

「公共レンタサイクル「まちなり」の利用回数」※目標設定の考え方基本計画 P.68～P.71 参照
1. 調査結果の推移



※調査方法：実績調査
 ※調査月：平成29年3月
 ※調査主体：金沢市
 ※調査対象：まちなり利用者

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 自転車利用推進事業（事業主体名：金沢市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成24年3月～【実施中】
事業概要	市民の日常の移動手段として都市内交通の充実と、来街者のまちなか回遊性向上として二次交通の充実を目的に、平成24年3月 公共レンタサイクル「まちなり」の本格運用を開始した。
目標値・最新値	公共レンタサイクル「まちなり」利用回数 【目標値】100,000回 【最新値】214,770回（H28）
達成状況	目標値を大きく上回る利用回数を達成した。
達成した（出来なかった）理由	まちなかにおける市民や観光客等の移動手段として定着し、利用が拡大している。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなかの賑わいの創出や交流人口の拡大に貢献している。
事業の今後について	需要を注視し、回遊性を高めるよう政策的な誘導を図りながら、ポートの増設等、事業の充実拡大を図っていく。

3. 今後について

中心市街地は、城下町の街路構造を受け継いでおり、大規模な都市基盤構造の改変はまちなりの魅力を損ねるため、現状の都市構造を保全しながら、中心市街地へ容易にアクセスでき、安心して回遊できる環境づくりを進める必要がある。

このため、市民や観光客等の移動手段として利用が定着してきている「まちなり」の充実拡大をはじめ、公共交通の優先度と利便性の向上、歩行空間・自転車歩行空間の充実、駐車場の再整備など、公共交通を中心とするネットワークの構築に取り組む。